クローズアップインタビュー

瑞宝双光章受章者　神谷弘子 氏（70歳）

主な経歴

昭和38年～昭和59年	吉浜小学校・高浜小学校・高浜中学校教諭
昭和59年～昭和62年	愛知教育大学附属岡崎中学校教諭
平成２年～平成４年	高浜市学校教育指導員
平成４年～平成９年	高取小学校教頭
平成９年～平成13年	高取小学校校長
平成12年～平成13年	高浜市校長会会長
	愛知県女性校長会会長
平成14年～現在	保護司として活動

平成二十二年秋の褒章の発表があり、神谷弘子さん（田戸町在住）が瑞宝双光章を受章されました。神谷さんは永年にわたり教職を勤め、市内初の女性校長としてご活躍されました。受賞の喜びなどをお聞きしましたので、インタビューを紹介します。

―受章の感想―

思いもよらなかったという思いが大きく、大変びっくりしています。章をいただけたのは、先輩方や、ＰＴＡ、地域の方など、皆さまのご指導・ご支援があってこそです。感謝しております。また、高浜市内では女性で初めて校長・教頭を務めましたので、女性代表としていただけたのではないかと思っています。

―仕事（教師）について―

◉きっかけ

父の戦死後、母が女手一つで私と妹の二人を育ててくれました。母自身は瓦工場で働いていましたが、娘には手に職をつけて欲しいという思いから学校へ通わせてくれました。

教職については恩師の勧めがあったこと、また母のためにと選びましたので、章の半分は母のものだと思っています。

◉苦　労

子どものころから恥ずかしがり屋で、授業で指名されても本も読めないほどでした。新任のころも授業などで声が出ませんでしたが、先輩の指導のお陰で授業もできるようになりました。

ですが話すことについては、今でも苦労しています。ほとんどの校長は全校集会などでその場で話していますが、私は原稿を書き、それを見ながら話していました。

◉喜　び

やはり、子どもたちの成長を見られることです。教え子が社会で活躍しているのを見聞きしたり、卒業生が声をかけてくれたりすることを嬉しく思います。

―教え子に対する思い―

授業では一人ひとりを大切に、と言いますが、１クラスが50人以上の時代でしたので、目をかけたい、話しかけたい、と思いながらもなかなかできませんでした。ですがあのころの子どもたちは我慢強く、よく話を聞いてくれ、彼らが私を教員として育ててくれたのだと感謝しています。

教え子たちには、仕事に責任を持ち、優しいお父さん・お母さんになってほしいと願っています。昔と違い、男性も子育てをする時代です。頑張っていい親になってください。

―若い人へ―

世間には成果主義の風潮がありますが、結果を急いで求めすぎずこつこつ努力してほしいと思います。人生は楽しいこともあれば苦しいこともあります。冬が過ぎれば春が来るように、ずっと苦しいままということは絶対にありません。希望を持って前に向かって進んでください。